

今週のメニュー

■トピックス

◇「Ori美」おりがみ会館で展示会 8/31 まで開催

■随想

◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩（その3）
ーインド門にてー（終）ー

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

■編集後記

■トピックス

◇「Ori美」おりがみ会館で展示会 8/31 まで開催

PVC Design Award 2012 で特別賞受賞の「Ori美」が、商品化を目指して「ジュエリーおりがみ：きらきらおもちゃで遊ぶ」と題し、7月1日から8月31日の間、おりがみ会館ギャラリーにて展示会を開催中です。

おりがみ会館(写真1)は、非常に歴史が古く、安政五年(1859年)手染め和紙工房として創業、明治初年には文部省の依頼により日本で最初の折り紙製品を生産、販売を始められました。2005年には、NPO 法人国際おりがみ協会を設立、創業の地、文京区湯島(お茶の水)にておりがみを通じた国内外の親善交流と、広く社会に貢献していく活動を進められており、いろいろな教室やギャラリーにての様々な作品の展示会を開催してきています。

「Ori美」は、東日本プラスチック製品加工協同組合と女子美術大学の^{すのはら}春原さんの産学協同作品として、2012年のPVC Design Awardに製品応募され、春原さんの塩ビ折り紙のアイデアを同協会が素材および加工技術を駆使して作り出されたものです。受賞されて以後も何とか製品化、商品化の可能性を探しておられた熱意がおりがみ会館との出会いとなったようです。おりがみ会館様では、紙の老舗とはいえ、新しい素材の可能性にも共感していただけたようです。

塩ビのフィルムを格子状(グリッド)にすることで折りやすく、立体的な作品を仕上げることができる「Ori美」は、作者の春原さん(写真2)の言葉をそのままお借りすると、以下の特徴があります。

- ① 透明感がある…ビニールならではの透明感が特徴的です。違う色を重ねると新しい色を作り出すことができます。(例：黄×青＝緑)
- ② 折り目がつかない…1枚のシートで何度でも遊ぶことができます。



写真1 おりがみ会館



写真2 作者の春原さん

- ③ 水にぬれても平気・・・お風呂に持ち込んだり、池に浮かべたりすることができます。
- ④ 強度がある・・・破れにくく、劣化しにくいので長期保存が可能です。

2階ギャラリー展示場では、受賞後にも各種素材の選定、加工に磨きをかけ、また、新たに製作したおりがみ作品が色鮮やかに展示されており（写真3）、また、Ori美製の安全な手裏剣投げゲーム（写真4）も用意されており、小さなお子さんも楽しく見て、遊んでいました。夏休みが終わるまでの8月いっぱいには展示されていますので、是非お子様連れで見に行かれてはいかがでしょうか。

尚、今年のPVC Design Award 2013の「デザイン提案」部門では、2011、2012を大きく上回る220件の応募がございました。「製品」部門提案は締切まで時間がございます。優れた提案が多数寄せられることを期待しております。



写真3 Ori美 展示のようす



写真4 小さなお子さんも楽しめます

■ 随想

◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩（その3） ーインド門にてー（終）

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

ムンバイ最後の日である4月13日は、フライトが夜の8時発ということで折角のインドでありかつ塩ビ管の紹介も無事終わったことだから、どこかに行ってみようと思いつきました。ただ、一人での行動で付きまとう不安も当然のごとくあり、やはり最善の方法はホテルに頼んで自動車を準備することです。そして目的地は、英国王(インド皇帝)ジョージ5世夫妻の来印を記念して1911年に建立された「インド門」とその前にあるインド最大の富豪といわれたシャムシェード・ターターが建てた「タージ・マハル・ホテル」に決めました。片道1時間程度かかるとのこと、見ているあいだはどこかで待っていてもらい、また約束の時間と場所にまた迎えに来てもらうということで、交渉が成立しました。当然ですが、値段交渉も含めてです。無事ホテルに戻れるかの不安は完全には拭えない中で、なるようになると覚悟を決めて8時にいざ出発です。

走っている車は、小さい自動車が多いですね。また、バイクの2人乗りでかつ女性を後ろに乗せて疾走しているのを良く見かけました。女性の中には、我々がインド人の服装として思い浮かぶとおりのスカーフをかぶって、原色の薄手の衣服をまとった人も見かけます。ただし、特に若い女性は日本でも見かけるラフな服装の人の方が多くですね。また、街並みでは、高いビル群もあるけど、日本でいえばスラムのようなところもあり、かつこんなにも人がいるのかと思うくらい溢れています。人に混じって牛がのんびり座っているのも見かけます。天気は快晴とまでは行かないけどいい日なのに、どこか遠くの空気が茶色っぽく、あまり雨が降らないのか土埃が舞っているという雰囲気です。

いずれにしても、最初に触れたとおり、自動車は車線に従って整然と進む日本では考えられないような、隙間をすり抜けながらクラクションと共に走り抜け、かつそこを歩行者が横断していくという、渋滞の中を無法地帯の状態です。ちなみに当方が乗った車は、トヨタ車で「追い抜くことはあっても、追い抜かれたことは一度もありません」でした。「グッドドライバー！」と褒めたら、「サンキュー」と喜んでいました。

そうこうしているうちに、インド門に到着です。ほぼ予定どおり9時です。待合せ場所は降りた場所と同じ、迎えに来てもらう時間は見学の所要時間を考え9時45分としました。心配なので、紙に約束の時刻を書いて渡しました。更には、先ほど「グッドドライバー！」と褒めたので口先だけでなくチップも渡し、当方本心は「ここまでしたから約束を守るだろう」と念には念をいれたつもりです。

インド門は大きさ・雄大さと共に、海に面しているというのも人気スポットなのかなーと思いました。インド人にも人気があるのか、家族連れを中心に多くの人が集まっています。当然のごとく日本人らしき観光客は「ゼロ」ですね。

また、インド門側からみた「タージ・マハル・ホテル」も、歴史と気品を感じる建造物です。



インド門

タージ・マハル・ホテル

インド門の周りでは、アルバムみたいなものを持って寄ってくる年配・若手のインド人を振り切るのが大変でした。写真をとってアルバムにしてやるというのでしょうか。そうこうしているところで、インド門を背に海に目をやっているとインテリ風のおじさんが「Can you speak English?」と近づいてきました。

取りあえず「A little・・・」といったら、「まあ、腰かけて話しましょう」ということとなり、「自分はバンガラディッシュから来た。英語の教師である。日本のことも知っている。大阪の豊中も知っている。」といったことを言ってきて、当方も何となく日本のことに詳しいということもあり、悪い人ではないなと友達気分になってきました。

そこからが問題なのです。彼曰く「パスポート・財布・カメラの入ったかばんを盗られてしまった。とりあえず首都であるニューデリーまで汽車に乗って行かねばならない。(多分領事館に行くということなのだろう。)それで、列車の切符が50ドルである。「Can you help me?」と頼まれてしまいました。「えー!!」といった顔をしたら、2~3回同じことを言っています。これは大変なことになったぞと状況一変です。列車の切符代が欲しいということです。この話は本当かもしれないけど、だまされたら癪だし、これは早くここから離れよーという意思決定を自分の中で決めて、先ほどのフレンドリー気分から一変してそそくさとその場を離れました。当然後ろから追ってこないのを確認しながらです。

そんなことで待合せの時間である 9 時 45 分があつという間に近づいてきて、待合せの場所へと移動です。ところが、ところが、9 時 45 分をとっくに過ぎても目指す自動車はやってきません。当然ここは人も車も溢れており、当方同じところに立っていると、「変な奴がいる」と周りから思われていると感じつつの長い時間です。長〜いといっても、10 時頃に待っていた自動車が来たのですが、超不安な 15 分間でした。その間、「もし車が来なければどうしてホテルまで行くのかなー。「あれだけダメだと言われていた流しのタクシーを拾うしかない」ということが、頭の中を駆け巡っていました。あとで冷静に考えてみると、時間に正確なのは日本が特別であり、会議の時といい 10 分・15 分の遅れは遅れたと言わないのだと納得しました。

ともかく結果オーライで無事ホテルに戻ることができました。チェックアウトの為荷造りをしていざ部屋を引き上げようとした時、コンコンとドアをノックする声が聞こえてきて、開けた途端なんと花を抱えたボーイが笑顔で立っているではありませんか！「私がずっと数日間あなたの部屋のクリーニングを担当させていただきました。お礼の印に花を贈ります。」というではないですか！



ボーイからいただいた花

もらった花をテーブルの上に置き、「インドとは？・・・」と、このわずか5日間の出来事と印象を振り返りながら、ひととき自分に問いかけてみました。

(終)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

猛暑、集中豪雨に落雷と屋外で過ごし難かった夏が終わろうとしています。確かに、朝晩の空気の香りが秋めいて来ている事を感じる今日この頃です。しかしながら、日中の暑さは暫く続くとのことで、引き続きの熱中症対策は必要なのだらうと思います。

熱中症対策グッズの中で、個人的に秀逸と思っているグッズに「夏のマフラー」があります。高吸水性ポリマーからなる繊維で作られたマフラーに水を吸水させ、それを首に巻き、気化熱で首を冷却するというもので、個人的にはかなりの効果があると思っています。高価なものでは無いので試してみる価値はあると思っています (KT)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp